

広報ほんべつ

本割

いいひと いいまち いきいきほんべつ

HONBETSU

2015

August
No.1042

8月

表紙 本高祭仮装
パフォーマンス



いよいよ始まるマイナンバー

いよいよいよいよ始まるマイナンバー

平成27年10月から、日本国内に住む全住民にマイナンバー（個人番号）の通知カードが送付されます。このマイナンバーは、個人が特定されないように、住所地や生年月日などに関係のない12桁の番号が一人ひとりに割り当てられ、この番号を利用し、社会保障や税、災害対策などの分野で情報を管理し、国や地方公共団体が保有する情報の連携がスムーズになり、住民サービスの向上が図られます。



マイナンバーキャラクター
マイナちゃん

マイナンバーとは？

マイナンバーは、住民票を有する人すべてに12桁の番号を一つ設定し、各行政機関が保有する個人情報を用いてこの番号を利用し管理することで、同じ人の情報であることを正確かつスムーズに確認できるようにします。これにより、年金や福祉などの手続きに留意しなればならない書類が不要となるほか、行政機関にある自分の情報の確認や行政サービスのお知らせの受け取りがスムーズになるなど、マイナンバーによってもっと便利な暮らしを実現することが出来ます。

何に利用されるの？

平成28年1月以降、国や地方公共団体で社会保障や税、災害対策の行政手続きに利用されます。住民の皆さんは、年金や雇用保険、医療保険の手続き、生活保護、児童手当、その他福祉の給付、確定申告の税の手続きなどで、申請書等にマイナンバーの記入が必要となります。

マイナンバーは安全？

マイナンバー制度の安心・安全を確保するため、制度面とシステム面の両方から個人情報保護の措置を講じています。自分のマイナンバーがどのように取り扱われているか気になる人のために、平成29年1月から「情報提供等記録開示システム」が稼働予定で、このシステムによって、マイナンバーを含む自分の個人情報（不正に照会・提供されていないか）を確認することが出来ます。

マイナンバーはこんな場面で必要となります

社会保障

- 年金の資格取得や確認、給付
- ハローワークの事務
- 医療保険の給付の請求
- 福祉分野の給付、生活保護 など

税務関係の手続き

- 税務署に提出する申告書、届出書、調書
- 都道府県、市町村に提出する申告書 給与支払報告書 など

災害対策

- 防災、災害対策に関する事務
- 被災者生活再建支援金の給付
- 被災者台帳の作成事務 など

個人番号カードの交付

平成27年10月以降に通知されるマイナンバーの通知カードと共に個人番号カードの申請書が配布されます。個人番号カードは顔写真付きのICカードで、社会保障や税関係等の行政手続きの各種申請に利用できるほか、本人確認のための身分証明書としても利用できます。個人番号カードの発行は、平成28年1月から開始されます。

個人番号カードのイメージ（例）

< 表面 >

< 裏面 >



※デザインは現在検討中で、実際のカードと異なる場合があります

制度実施の流れ

● **住民票の住所に通知**
平成27年10月以降
住民票を有する人全員に12桁のマイナンバーが通知されます。

● **マイナンバー利用開始**
平成28年1月
税、年金、医療保険などの手続きで利用開始。個人番号カードの交付も始まります。

● **個人ポータルサイト開始**
平成29年1月以降
自分の情報をいつ、誰が、なぜ提供したのか確認できます。行政機関からのお知らせも受け取れます。

● **地方公共団体等も含めた情報連携を開始**
平成29年7月以降
情報連携により事務が確実かつスムーズになり、住民の負担が軽減されます。

問い合わせ

*企画振興課広報電算担当 ☎22-8121

*内閣官房マイナンバーコールセンター ☎0570-20-0178

全国共通ナビダイヤル 午前9時30分～午後5時30分（土日祝日・年末年始を除く）

本別町戦没者・戦災死没者追悼式

戦争による犠牲者の方々の冥福を祈り、恒久平和を願う「本別町戦没者・戦災死没者追悼式」が7月15日午前10時から、遺族や来賓など約60人が参列し、向陽町ふれあい交流館でしめやかに執り行われました。

平和への誓い新たに
7月15日

本別町では、日清・日露・第2次世界大戦の戦いで299人が戦死。終戦直前の昭和20年7月15日には、米軍機による本別空襲で40人が犠牲になり、十勝で最大の被災地となりました。

追悼式では、全町民に黙とうを呼び掛けたサイレンが吹鳴され、参列者全員で黙とうを捧げた後、高橋正夫町長が「戦後70年の月日が矢のごとく過ぎ、時の流れは平和の尊ささえ忘れさせようとしています。国際社会では、現在もお武力による紛争が続いていることを考えると、今こそ真剣に恒久平和の実現に努めるとき。あの悲惨な歴史を二度と繰り返さぬよう、町民とともに決意を新たにすることが今に生きる私たちに課せられた責務であり、最上の務めです」と式辞を述べ、方川一郎町議会議長、桑田達一社会福祉協議会会長、政木高治本別町遺族会会長らが追悼の言葉をささげました。

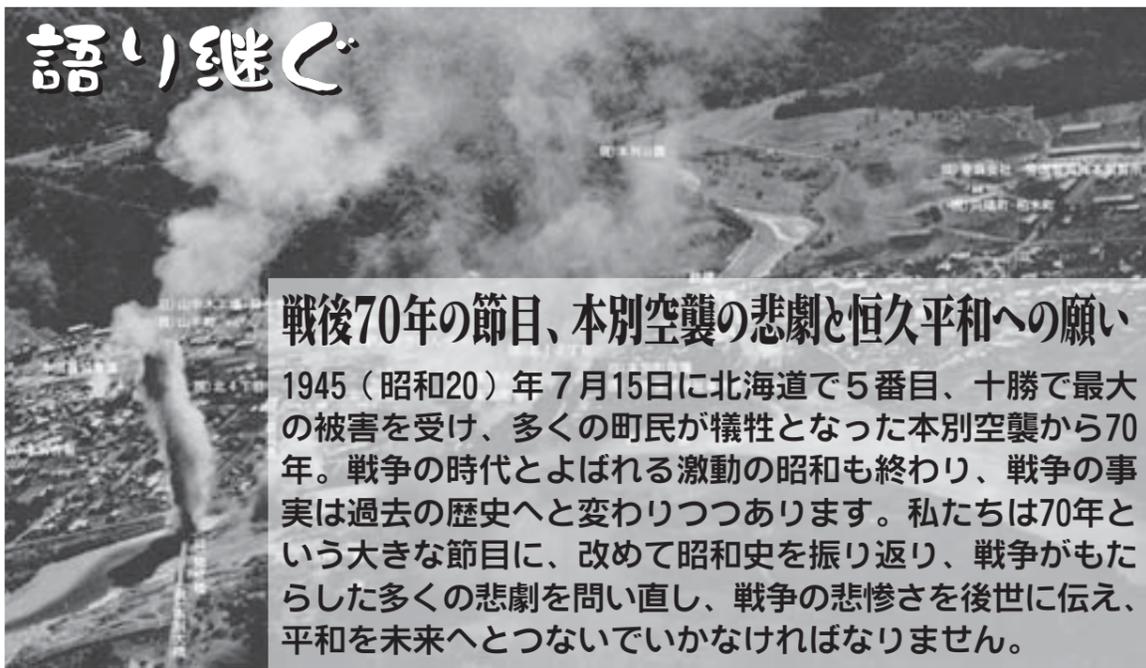
続いて参列者全員で献花を捧げ、犠牲者への冥福を祈り、平和への誓いを新たにしました。



参列者全員で献花

冥福と
恒久平和を願って

追悼式に先駆け、本別町遺族会の会員11人が7月13日に、戦死や戦災で亡くなった人の冥福と恒久平和を願い、本別神社内にある戦没者慰霊碑の清掃奉仕を行いました。



戦後70年の節目、本別空襲の悲劇と恒久平和への願い

1945（昭和20）年7月15日に北海道で5番目、十勝で最大の被害を受け、多くの町民が犠牲となった本別空襲から70年。戦争の時代とよばれる激動の昭和も終わり、戦争の事実は過去の歴史へと変わりつつあります。私たちは70年という大きな節目に、改めて昭和史を振り返り、戦争がもたらした多くの悲劇を問い直し、戦争の悲惨さを後世に伝え、平和を未来へとつないでいかなければなりません。

ほんべつ学びの日 祈風事業

資料館特別展「7月15日本別空襲を伝える」

「昭和史から見る戦後70年」

資料館特別展「7月15日本別空襲を伝える」昭和史から見る戦後70年」が、7月10日から同資料館で始まりました。戦後70年の節目を迎えた今回は、1階に特別展示として「広島・長崎の原爆」の貴重な資料を広島平和祈念資料館からお借りして、原爆被害の実相や核兵器の恐ろしさを伝えるパネルのほか、被爆した生活用品や瓦など建物の一部、衣料品、手紙など20点の実物を展示。2階では、本別空襲で炎上する市街地の写真や爆弾の落とされた位置などを模型で紹介する空襲マップ、寄せ書きの書かれた日章旗、軍国主義時代や戦後の混乱から復興までを「いろはかるた」で描いた昭和史かるたの原画などが展示されています。この特別展は、8月16日まで開催していますので、どうぞご来場ください。



広島・長崎の原爆被害や 本別空襲の資料から

広島・長崎の原子爆弾被害や本別空襲の貴重な資料から、時代の背景や戦争の悲惨さを多く伝えていきます。この資料から歴史を振り返り、二度と悲惨な戦争を繰り返さない、平和の尊さ、平和を未来へとつなぐメッセージを発信していきます。

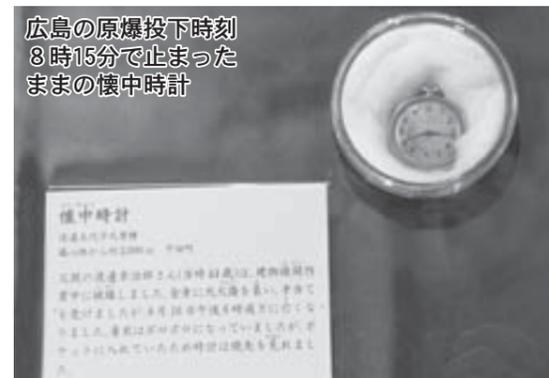
●資料館特別展の展示品の一部を紹介 【広島・長崎の原爆資料】



原爆投下後の広島・長崎の街の様子を写真で展示



原子爆弾の熱で溶けた屋根瓦



広島原爆投下時刻
8時15分で止まった
ままの懐中時計

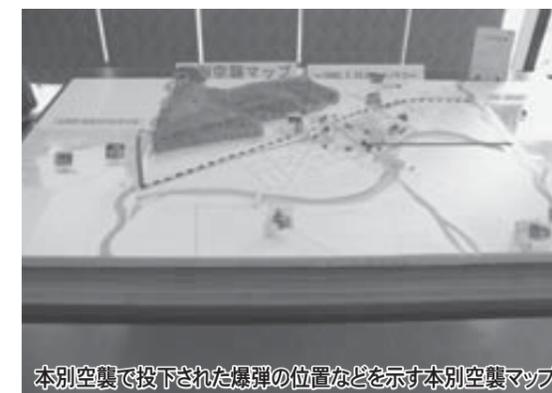


被爆した人の体内から
取り出されたガラスの破片

【本別空襲資料】



仲間を戦地に送り出すときに持たせた
寄せ書きの書かれた日章旗



本別空襲で投下された爆弾の位置などを示す本別空襲マップ

戦後70年 平和のつどい

特別展開連事業として「戦後70年平和のつどい」が本別空襲から70年を迎えた7月15日、中央公民館で開催されました。



明瞭な語り口で講談する神田甲陽氏

広島・長崎の原爆投下を テーマに講談

山梨県甲府市在住の講師真打ち神田甲陽氏を迎え、「ヒロシマ・ナガサキ・アンド・ピース」題し、自作の講談が行われました。神田さんは、広島で被爆した当時2歳の佐々木禎子さんが後遺症に苦しみながら12歳で生涯を閉じるまで、生きる希望をもち折りづるを折り続けた様子や、長崎の国民学校で爆死した当時16歳の林嘉代子さんの母親が、原爆投下当日に娘が「学校に行きたくない」と言ったのを無理やり送り出した後悔の思いを明瞭な語り口で講談し、原爆の悲惨さを訴えました。この他、図書館ボランティアぶっくる会員による原爆にまつわる詩の朗読や本別混声合唱団会員による平和を願う歌の合唱が披露され、参加した約130人の町民らは平和への願いを新たにしました。



詩の朗読をする図書館ボランティアぶっくるの皆さん

戦争を知らない今の子供たちへ

戦争中の生活や戦争の悲惨さを学ぼうと、町内各小中学校児童・生徒たちが7月10日から開催されている歴史民俗資料館の特別展を訪れました。勇足小学校全校児童48人が7月14日に、勇足中学校全校生徒20人が7月15日に、本別中央小学校6年生43人が7月21日に特別展を訪れ、特別展の貴重な資料の見学や昔の食体験として「アカザのごまあえ」と「大根入りご飯」の試食、戦争時代子供だった資料館友の会（高橋利勝会長）会員の林敏子さんから当時の生活や本別空襲体験の話しを聞きました。展示資料の見学では、同会の会員らが戦争に関する貴重な資料の一つひとつ丁寧に説明し、児童生徒らは、戦争の恐ろしさや平和の尊さを学びました。



大根入りご飯を試食する勇足小学校児童



説明を受けながら原爆資料を見学する本別中央小学校の6年生



林さんから本別空襲や当時の生活の話聞く勇足中学校生徒

太陽の丘野球場がオープンしました

オープンに合わせ 33チームが熱戦!

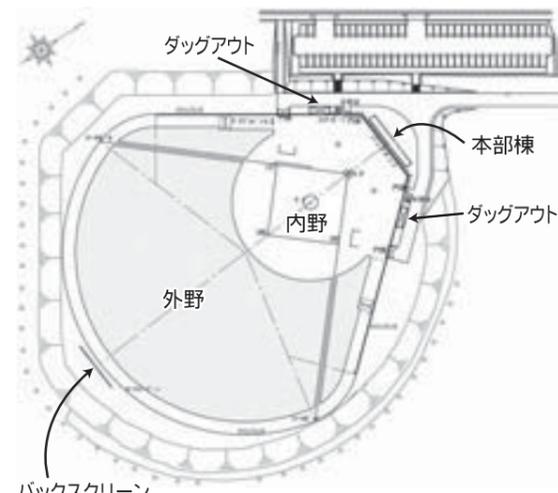
オープン当日には、第30回十勝管内町村少年野球本別大会（十勝管内町村少年野球指導者協議会、十勝毎日新聞社主催）が、太陽の丘野球場をはじめ町内5会場で開催されました。十勝管内の野球少年団33チームの団員や父母ら約700人が、オープニングセレモニーの開催された太陽の丘野球場に集まり開会式が行われ、プロ野球元西武ライオンズ投手の三井浩二さん（足寄町出身）が出席し、団員らを激励したほか、大会の始球式を行いました。開会式終了後、団員らは、各会場にわかれ20日までの3日間、熱戦が繰り広げられ、本町の本別レッズ野球少年団（石川泰共主将）団員15人が健闘し、見事3位入賞を果たしました。



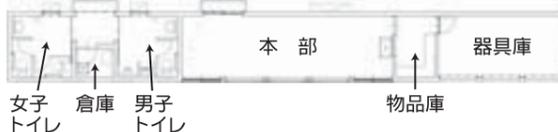
総合運動公園太陽の丘野球場全景

太陽の丘野球場の概要

●太陽の丘野球場平面図



●本部棟平面図



所在地	本別町弥生町62番地7
球場	面積：クレー舗装（内野・外野）5,112㎡ 天然芝舗装（外野）8,119㎡ ほか 合計 13,295㎡ 距離：両翼96m、センター120m 設備：フェンス、ダッグアウト、バックネット、バックスクリーン、スコアボード、内野黒土、外野芝、水飲み場
本部棟	木造平屋建て 63.18㎡ 本部席（放送設備）、物品庫、器具庫、トイレ
駐車場	64台
事業費	141,007千円



テープカットでオープンを祝う関係者ら

町民の思い、 子供たちの夢 いよいよオープン

太陽の丘野球場オープンを記念したオープニングセレモニーでは、高橋正夫町長が「多くの関係者の皆さんの支援により、30年近く暖めてきた町民の思い、子供たちの夢が実現し、待望の球場がオープンできることに感謝します。未永く愛される球場としてかわいがっていただけたよう支えてほしい」とあいさつ。続いて、方川一郎町議会議長や我妻町体育協会会長が祝辞を述べました。オープン記念として軟式野球連盟から観戦用の簡易スタンド2基が寄付され、同連盟の黒山会長が高橋町長に目録を手渡しました。最後には、町内3少年団キャプテンや関係者ら10人のテープカットでオープンを祝いました。



高橋町長へ観戦スタンドの目録を手渡す黒山会長

本別町太陽の丘総合運動公園整備計画に基づき平成25年度から着工し、2年間にわたり整備してきた太陽の丘野球場が7月18日、町体育協会（我妻勇次会長）会員や町軟式野球連盟（黒山久男会長）会員、多くの来賓らに見守られながらオープンしました。

野球場の利用について

事前の申請が必要となります。球場の芝等の状況により使用できない場合がありますので、教育委員会社会教育課スポーツ担当（町体育館内）までお問い合わせください。

●使用時間 日没まで（夜間照明なし）

●使用期間 冬期間閉鎖

●使用料

種別	料金（1時間あたり）
野球場	700円
本部棟	300円

1. 町外者の使用料は、1.5倍となります
2. 町民が営利目的で使用する場合の使用料は2倍となります
3. 町外者が営利目的で使用する場合の使用料は3倍となります

問い合わせ 教育委員会社会教育課スポーツ担当（町体育館内） ☎22-2331



将来にわたって活力ある地域を維持していくために 「まち・ひと・しごと創生推進委員会」が設置されました

国は、昨年11月に「まち・ひと・しごと創生法」を制定しました。この法律の施行に伴い、全国の自治体において、「まち・ひと・しごと創生」が進められます。

本町でも、将来に渡って活力ある地域を維持していくため、今後5か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめる「本別町まち・ひと・しごと総合戦略」を策定します。6月30日には、総合戦略等策定に向けた検討、推進・実施にあたっての検証等を行なう「まち・ひと・しごと創生推進委員会（町民組織）」の第1回会議が開催され、将来の本別町をつくる議論がスタートしました。



第1回会議（6月30日）

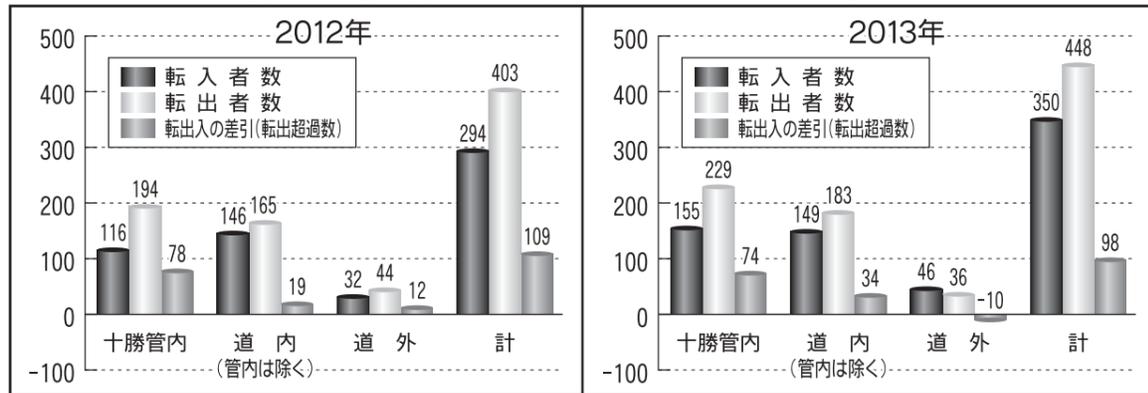
第2回会議（7月14日）



積極的な意見交換

まち・ひと・しごと創生推進委員会は、多くの意見が反映されるよう、住民や産業界・行政機関・教育機関・金融機関・労働団体等で構成され、15人の委員に委嘱。第1回会議では、会長に水谷千治さんが選任され、事務局から本別町まち・ひと・しごと総合戦略の策定や作業手順、本別町の人口動向や将来推計等についての説明を行いました。7月14日に開催された第2回会議では、人口減少に歯止めをかけるため、現状や課題、本別町の強みや弱みについて、積極的な意見交換が行われました。

【表1】地域別の人口移動（転入・転出）の状況（人） ※住民基本台帳より



本別町の人口移動の状況

5月1日号において、本別町の転入・転出の推移については、一貫して転出超過（社会減）が続いていることをお知らせしました。本号では、どこの町から本別町への転入があり、どこの町へ本別町から転出しているか、地域別の人口移動の状況について説明します。

表1

・2012年の移動状況では、294人が転入、403人が転出しており、転出者が109人多くなっています。
・地域別の転出入の比較では、十勝管内が78人、道内（管内は除く）が19人、道外が12人で、それぞれ転出が多くなっています。
・2013年の移動状況も同様の傾向であり、近年の転出入の比較では、転出者が100人前後多い状況が続いています。
・十勝管内以外の人口移動については、農大生による全道各地からの移動もあり、固定地域の移動傾向はないと考えられます。

表2

・表1のうち、十勝管内分の人口移動の内訳を示したものが表2であり、人口移動総数では、帯広市からの移動者（転出入）が最多で、転出入の比較では、2012年は帯広市（45人）、2013年では音更町（30人）への転出者が多くなっています。
・傾向としては、帯広市・幕別町・音更町への流出が大きく、転出入の差し引きでは、2012年は73人、2013年は68人が流出しており、全体の流出数とほぼ同数が3市町へ流出している状況となっています。

【表2】十勝管内の人口移動の状況（人） ※住民基本台帳より

十勝管内市町村	2012年			2013年			
	転入者数	転出者数	転出-転入(転出超過数)	転入者数	転出者数	転出-転入(転出超過数)	
帯広市	40	85	45	54	76	22	
幕別町	11	25	14	14	30	16	
音更町	10	24	14	11	41	30	
その他の町村	東部(幕別町を除く)	18	17	-1	14	8	-6
	北部(音更町を除く)	10	7	-3	7	8	1
	東北部	12	20	8	17	20	3
	西部	8	8	0	24	22	-2
	南部	7	8	1	14	24	10
計	116	194	78	155	229	74	

問い合わせ 企画振興課 企画・生涯学習担当 ☎ 22-8121

「臨時福祉給付金」を支給します

町では、平成26年4月から消費税率が8%へ引き上げられたことによる影響を緩和するため、所得の少ない人に「臨時福祉給付金」を支給します。
支給対象となる可能性がある人には、町より申請書をお送りしますので、忘れずに申請手続きをしてください。



申請期間

8月3日(月)～

11月4日(水)

申請窓口

子ども未来課(役場1階)

保健福祉課

(総合ケアセンター内)

役場勇足・仙美里出張所

○支給対象者

平成27年1月1日において本別町に住民登録があり、平成27年度分の町民税(均等割)が課税されていない人。

※ただし、町民税が課税されている人の扶養親族等となっている人、生活保護の受給者などは対象外です

○支給額

1人につき6千円

※今年度は加算措置はありません
※臨時福祉給付金と子育て世帯臨時特例給付金のそれぞれの支給要件を満たす人については、両方の給付金を受け取ることができます

●●●申請手続きの流れ●●●

① 申請書が自宅に郵送されます(7月下旬)

対象となる可能性のある人に郵送しています。
対象となる人で、申請書が届かない場合は、ご連絡ください。



② 申請書を役場窓口に提出してください(8月3日～11月4日まで)

申請書に必要事項を記入の上、次の書類を添付して窓口申請してください。

【申請に必要な書類等】

○本人確認書類

住民基本台帳カード、運転免許証、保険証など
(外国人住民の人は在留カード、特別永住者証明書など)
※世帯で申請する場合は、支給対象者全員の本人確認書類が必要です



○振込先の口座が確認できる書類

金融機関名、口座番号、口座名義人(カナ)が分かる通帳やキャッシュカードの写し
※通帳の写しは表紙ではなく、1枚開いたお名前、店番号、口座番号が記載された面をコピーしてください
※昨年度受給された人で、昨年度と同じ金融機関口座へ振り込みを希望される場合は必要ありません

○扶養者の非課税証明書

扶養者の住所が本別町以外の場合、その扶養者の非課税証明書が必要です
※扶養者の住所が本別町の場合、申請書に扶養者の同意が必要です



○持ち物 印鑑

★郵送での提出もできます

郵送先 〒089-3325 中川郡本別町西美里別6-15 保健福祉課まで
※記入もれ、押印もれのないようご注意ください



③ 給付金が支給されます

申請時に指定した口座に入金されます。
※入金は10月以降となります



問い合わせ 保健福祉課社会福祉担当(総合ケアセンター内) ☎22-9236

夢! 実現に向け 本高生を支援します

～本別高校の教育を考える会の支援～



旧制中学として開校し、十勝管内で2番目に古い歴史と伝統をもった本別高校は「創意実践」の校訓により生徒一人ひとりの個性を大切にしている教育を行っています。本別高校の教育を考える会では、本別高校の特色ある学校づくりと教育活動の充実、保護者の負担軽減を図り、生徒の夢実現に向けた各種支援を行っています。

生徒・保護者への主な支援

● 学力向上支援

【模擬試験受験料助成】
センター試験模試や学力テスト、看護、公務員模試など、進路へ向けた模擬試験受験料の半額を助成。
【補助教材活用費助成】
学習習慣の定着と学力向上のため、スタディーサポート教材や入試問題の書籍など、学校で使用される教材の購入費を全額助成。



● 進路指導対策支援

【進路職業講演会等への支援】
専門的な外部講師による進路講演会や指導などの経費を助成。
【資格取得検定料助成】
夢実現のために取得する英語検定・漢字検定など、さまざまな資格取得にかかる検定料の半額を何年度でも助成。
【オープンキャンパス参加助成】
進路を検討する上での大学や専門学校で行われている「オープンキャンパス・体験入学」の公共交通機関の参加交通費の半額(上限7000円)を年1回助成。



● 特別活動支援(部活動への支援)

【活動費助成】
今年度は11部活動へ練習や大会参加活動費として各部へ7万円、さらに1学年新入部員1人につき1万5000円を助成。
【外部指導者支援】
技術向上のためご指導いただいた町内の指導者に年額2万円を支給。
【大会参加交通費支援】
大会参加のバス貸切料金の半額を各部2大会まで助成。(上限2万8000円)



● 遠距離通学支援

【通学費の支援】
通学距離が片道6km以上の生徒へ1・2学年は10か月分、3年生は9か月分の通学バス代金を全額支給。
【下宿代支援】
本別町内に下宿し通学する場合、下宿代の半額を1・2年生は12か月分、3年生は10か月分を支給。(月上限2万円)
※それぞれの助成を受けている場合は、その助成額を除いた額を支給



● 学校行事支援

【校外学習行事への交通費支援】
多学年で行われる行事(スキー学習や強歩大会など)で利用するバス貸切料金を助成。(1台上限8万円)



● 入学準備支援

【制服の購入費支援】
入学時の制服購入費を全額助成。
【男子】
ブレザー・スラックス
(平成27年度購入額3万4236円)
【女子】
ブレザー・ベスト・キュロットスカート・スカート
(平成27年度購入額6万480円)



● 給食を提供

平成27年1月から町学校給食共同調理場で作った温かい給食を希望者に1食255円で提供されます。



本別高校で 夢の実現を!

平成26年度卒業生100%進路決定の実績!
国立大学5人、私立大学8人、私立短大3人、高等看護学校2人、専修学校等27人、就職25人。
詳しくは本別高校ホームページ
(<http://www.honbetsu.hokkaido-c.ed.jp/>)をご覧ください。

本別高校の教育を考える会では、本別高校生徒・保護者や皆さんと先生と一緒に「魅力ある本別高校」「本別高校で夢! 実現」をテーマにさまざまな活動を行っています。今回は経済的な支援についての取り組みをご紹介しましたが、今後、本別高校を応援する情報を発信していきますので、引き続き皆様の温かいご支援とご協力をお願いします。
本別高校の教育を考える会 会長 我妻 勇次

問い合わせ 本別高校の教育を考える会事務局(本別町教育委員会内) ☎22-2331

起業家等支援事業

成果発表会



平成24年にスタートし3年を経過した本事業は、本町における起業、または新商品開発等を促進することを目的としたもので、平成26年度は、4回の事業計画審査会（委員長＝砂原勝副町長）で申請のあった起業家等支援5件、新商品等開発1件の全てを認定しました。

発表会では、高橋正夫町長のあいさつの後、平成26年度の採択順で苦勞話や今後の抱負、支援への感謝の言葉が述べられたほか、平成25年度および平成24年度に採択された事業者から現在の状況を報告。続いて、事業計画審査委員から「苦勞と努力を交え、着実に前進されているなど感じた」「熱い思いがひしひしと伝わってきた」などと講評がありました。最後に懇親会が開かれ、参加した30人が新商品の試食などをしながら同事業に関する意見交換などをしました。

苦勞と努力を交え 着実に前進

町起業家等支援要綱を活用して、起業や商品開発に携わった個人や企業の成果発表会が6月23日、津村会館で開かれました。

平成26年度に本事業を活用し、開業または新製品を開発した事業者は次の通りです。

起業家等支援事業

開業となった事業者名	住所
ほんべつフリーライフ（飲食店）	北1丁目
横須賀 誠（小売業）	山手町
沼口 寿江（飲食店）	北3丁目
本寺 良子（食料品小売業）	上本別
倉川 美代（宿泊業）	北8丁目

新商品等開発支援事業

事業者名	開発された新商品
(有)水木産業	消臭・除菌剤



開発された新商品等と目の前に意見交換をする事業者たち

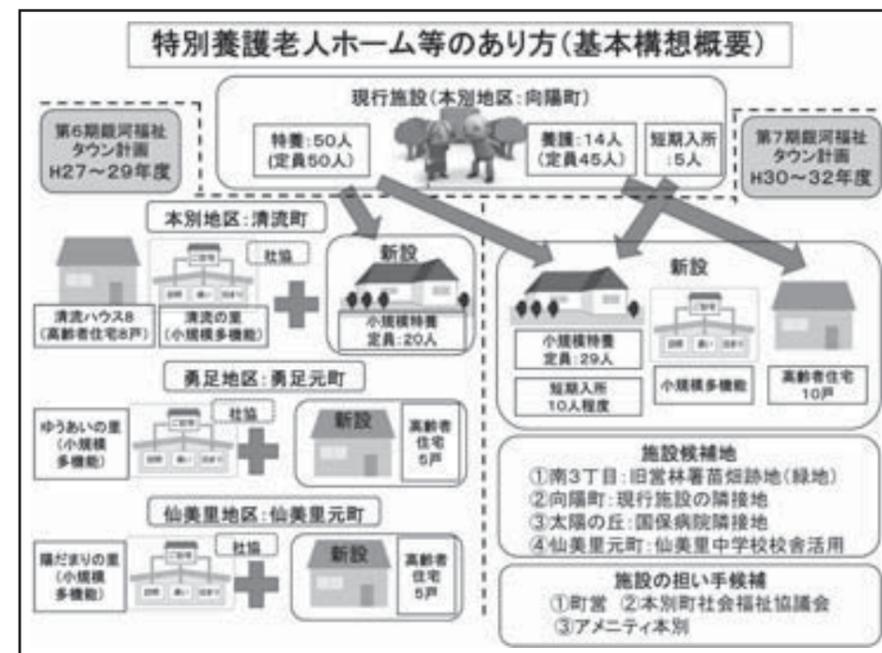
小規模特養を2か所、養護は共同住宅新設の方針



本別町健康長寿のまちづくり会議（井出壬午会長）が6月23日、総合ケアセンターで開かれ、老朽化が進む町特別養護老人ホーム（以下、特養）の建て替えについて、地域密着型小規模特別養護老人ホーム（以下、小規模特養）2か所に分割して建設する基本構想に関する審議を行いました。

会議では初めに、これまで検討を進めてきた特養と養護老人ホーム（以下、養護）建て替えの建設候補地案や設置の考え方について事務局が説明。委員からは新施設の担い手となる事業者の選定や建設地域への説明会実施に関する質問が出され、高橋正夫町長は「担い手の選定はオール本別で取り組み、町が責任を持って検討を進め、説明会もしっかりと行います」と述べました。

基本構想では、特養については小規模特養を2段階に分けて整備を進めることとしており、1か所目は平成29年度までの供用開始を目指し、清流町に建設する方針が示されています。2か所目は町内4候補地から検討し、第7期銀河福祉タウン計画期間中（平成30年～32年）に整備を行う方針で、今回の会議では、子育て支援施設などとの一体整備が可能なることから、南3丁目旧宮林署苗畑跡地が適当であるとの意見がまとまりました。養護については高齢者向け共同住宅への転換を図ることで検討を進め、高齢者住宅を3地区に設置する方針について了承されました。



説明に伺います

基本構想に関する説明会を希望する自治会・団体等がありましたら、気軽にお問い合わせください。

問い合わせ
総合ケアセンター
☎ 22-8520

特養建替え基本構想まとまる

HELLO 本別中央小学校

学校教育目標
自らを高めようとする子ども
考える子
助け合う子
がんばる子

本別町 認知症フォーラム

4月8日に1年生39人を迎え、全校児童238人で今年度がスタートしました。
昨年度より児童数が11人減少しましたが、今年度も「あいさつ、返事、後片付け」を合い言葉に、子供たちが元気いっぱいに登校できる学校を目指し、家庭・地域の協力をいただきながら特色ある教育活動に取り組んでいます。

1年生

4月8日(水)に入学してから、学校生活の中でたくさん
の経験し、毎日元気に登校しています。



4月に入学した1年生。1学期が終わり、学校生活にもすっかり慣れました。

給食の準備も自分たちでできるようになりました。交通安全教室では正しい交通ルールを学び、花壇づくりでは上級生と一緒にきれいに苗を植えることもできました。

運動会

6月6日(土)あいにくの曇り空でしたが、今年もたくさんの保護者・地域の方々に見守られる中、実施することができました。



学校二大行事の一つ、「運動会」。今年の運動会テーマ「キズナ～全力で最高の運動会に～」のもと、全校児童238人が全力で取り組みました。それぞれの学年が力を合わせ、キズナの大切さを実感できた1日でした。

地域連携

本校では、地元企業である鹿島組様のご協力をいただき、毎年環境整備を実施していただいています。



子供たちが安全に学校生活を過ごせるよう、今年は遊具周りの枯れ木の伐採や通学路の草刈りをしていただきました。休み明けに登校してきた子供たちも、きれいになって驚いていました。



病気理解し、予防活動を
畠山医師は講演で、老化によるもの忘れと認知症の違いや3大認知症といわれるアルツハイマー型、レビー小体型、血管性の3つの症状と実際に診断したケースの治療方法、薬の服用効果などを説明。絶対的な予防方法はないが、食生活の見直しや運動、旅行、読書などさまざまなことに興味を持って活動することが脳を刺激し、もしまつた場合でも進行を遅らせることができることと強調しました。認知症の人との接し方については、ゆっくりとわかりやすい言葉で話し、笑顔で語り掛けることが大切だと述べ、最後は「認知症の人の介護を長く続けることは想像以上に大変なこと。一人で悩まず、医療機関や介護スタッフなどに相談しましょう」と来場者へアドバイスしました。
このフォーラムでは、町地域包括支援センターの飯山明美所長が本町の認知症予防活動を、町農産物のづくり館ケンキッチンの浅井士朗氏が本別産の豆を使った認知症予防の料理2品を紹介しました。

本別町認知症フォーラム(主催Ⅱエーザイ、後援Ⅱ本別町)が7月11日、中央公民館で開催され、砂川市立病院精神科医長の畠山茂樹医師が「認知症?身近な病気、認知症のすべて」と題した講演を行い、約150人の来場者が認知症の正しい知識を学びました。



講演する畠山医師



浅井氏が紹介した認知症予防の料理「黒豆入り加菜ごはん」と「きなこラングドシャー」

ベストタイムを目指します **6 26**

標準記録を突破し、7月4日・5日に江別市で開かれる第38回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会北海道予選会に出場する本別水泳スポーツ少年団（及川哲夫監督）の選手9人が6月26日、教育委員会を訪れ、中野博文教育長へ全道大会出場を報告しました。選手は出場種目のほか、「ベストタイムを目指して頑張ります」などと大会の目標を力強く語り、中野教育長は「体調を整えて自己ベストを出せるよう頑張ってください」と激励しました。

【全道大会の結果】

13～14歳女子
 100m平泳ぎ 米澤萌香さん 6位
 100mバタフライ 羽生乃彩さん 6位



消防団遠藤団長に叙勲 **6 23**

藍綬褒章を受賞した池北三町行政事務組合本別消防団遠藤利之団長の叙勲伝達式が6月23日、役場実施され、十勝総合振興局浜名浩二副局長から勲記と勲章が手渡されました。遠藤団長は、昭和44年5月に同消防団に入団以来、班長や分団長などを歴任され、平成14年4月には団長に就任し、46年間の永きに渡り豊富な知識と経験を生かし、消防団組織の充実強化や災害活動等に指揮能力を発揮して地域防災活動にご尽力いただいています。受賞した心境を遠藤団長は、「身にあまる光栄で重みを感じる。少子高齢化により団員確保が難しくなっているが、少数精鋭で町民の安心安全を守るようまわづぐりに務めたい」と語りました。



本別の化石にびっくり **6 27**

ほんべつ学・春のまなび「ほんべつ大昔探検隊」が6月27日、弥生町のチャシ公園と本別公園で実施されました。参加した町内の小学生9人は、初めにチャシ公園で陸別町教育委員会の学芸員大鳥居仁さんから「チャシとは何だろう？」をテーマとしたお話を聞いたほか、本別公園では森と川の舎の新津和一代表らとともに、本別川を歩きながら化石探しや石割りなどを体験。森と川の舎では、新津代表が本別川から発見されたクジラや貝の化石などを紹介すると、子供たちは大きな化石に驚きの表情を見せていました。



森岡さんに 高齢者叙勲伝達 **6 25**

北7丁目の森岡嗣さん（元本別町議会議員）が旭日単光章を受賞し6月25日、十勝総合振興局浜名浩二副局長らが自宅を訪れ、勲記と勲章を手渡しました。森岡さんは、昭和53年8月から平成6年8月まで本別町議会議員として、文教厚生常任委員会委員や建設常任委員会副委員長、産業経済常任委員会委員長などを歴任。4期16年の永きに渡り本町の発展にご尽力いただきました。



ママのダンスで 赤ちゃんぐっすり **6 22 7 13**

家庭教育支援事業「なかよし」によるママとベビーのリズムダンスが6月22日、健康管理センターで行われました。インストラクターの小林永枝さんの指導のもと、参加した9組10人の親子は、お母さんが赤ちゃんを抱っこしながら、音楽に合わせて手足を動かすダンスに挑戦。ダンスを終えると、赤ちゃんはぐっすり眠り、お母さんは心地よい汗を流しながら笑顔を見せていました。7月13日には「心と身体のリフレッシュ～骨盤ケアを活用して」と題した骨盤ケア講座も同センター行われ、助産師の三浦智奈美さんを講師に、参加した13人のお母さんが、腰痛や肩こりなどの悩みを解消する骨盤ストレッチのほか、子どもの身体づくりに役立つ簡単な遊びなどを学びました。



ママとベビーのリズムダンス



心と身体のリフレッシュ
～骨盤ケアを活用して～

活気あふれる 夜でかけナイト **6 19**

「夜でかけナイト」が6月19日、北1丁目～北4丁目商店街で行われました。今回のイベントの目玉は、元気くんがデザインされた硬式木材バット20本の限定販売と、町内のお菓子店、パン店の人気商品詰め合わせの格安販売。それぞれ販売開始前からたくさんの人が集まり、行列ができる人気ぶりを見せました。国道沿いや銀河通りの商店街では、各商店が自慢の味を格安で販売したり、ゲームや子ども向けのヨーヨーすくいなどのお店を出店し、多くの家族連れや職場仲間らが本別の味覚と活気にあふれた商店街の夜を満喫しました。



ペットボトル ロケット作りに挑戦 **6 20**

町教育委員会主催による本年度前期第1回目のあかげら少年団「ペットボトルロケット作り」が6月20日、町体育館で開かれました。参加した町内の小学3～6年生19人は、1.8ℓのペットボトルを5本使い羽や好きな模様を書くなどロケットを完成させ、利別川河川運動公園多目的広場に移動。水の入ったロケットに空気を入れ、合図と同時に発射させました。発射されたロケットは、勢いよく水を噴出し大空へ舞い上がり、中には130mまで到達するロケットもあるなど、間近で見ていた子供たちから歓声が上がっていました。



人形劇に視線くぎづけ **7/7**

本別カトリック幼稚園人形劇上演会が7月7日、同園（岩瀬つた子園長）で行われました。これは、同園の芸術鑑賞事業として実施されたもので、東京都の劇団バクが「みにくいあひるの子」を上演。園児36人のほか、中央保育所および南保育所の年中、年長の幼児46人も一緒に鑑賞し、子供たちは歌や手遊びを楽しんだり、ステージで迫力いっぱいに繰り広げられるお話の世界に夢中になっていました。



タスキでつなぐ認知症支援の思い **7/4**

認知症の人や家族、支援者などがリレーでタスキをつなぐ「RUN伴（とも）（主催＝NPO法人認知症フレンドシップクラブ・RUN伴2015実行委員会）」が7月4日、町内で実施されました。これは、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指すために全国で取り組まれているイベントで、タスキは北見市をスタートし福岡県大牟田市まで引き継がれます。町内では、小規模多機能型居宅介護事業所「清流の里」から道の駅「ステラ★ほんべつ」、グループホームあさひの里前などを約30人で走り、道行くドライバーや沿道の歩行者に認知症への理解を呼び掛けました。



大阪の高校生がファームステイ **6/30~7/1**

大阪府立鳳高等学校2年生の40人が6月30日、修学旅行で本町を訪れ、ファームステイを体験しました。生徒らは、道の駅「ステラ★ほんべつ」で入村式を行った後、本別こども民泊受入れの会（井出千午会長）会員の12件に分散。都会では味わえない農作業体験をしながら、受け入れ家庭と交流を深め、1泊2日を楽しく過ごしました。



農大産黒毛和牛の焼肉を堪能 **6/28**

第42回農大祭（実行委員会主催＝齊藤智樹実行委員長）が6月28日、北海道立農業大学校（中島隆宏校長）で開催されました。会場では、仙美里ヶ丘ブランドのソーセージやベーコン、焼き鳥やかき氷などの多くの食べ物、飲み物の模擬店が出店したほか、販売された農大産黒毛和牛で多くの家族連れなどが焼肉を堪能。ステージ上では、腕相撲大会や抽選会など多くの催しが企画され、町内外から訪れた来場者たちは、学生とともに楽しい1日を過ごしました。



長年の人権擁護活動に感謝 **7/8**

長年にわたり本町の人権擁護委員として活動した前田友司さん（朝日町）への法務大臣感謝状伝達式が7月8日、役場で開かれました。前田さんは平成12年6月1日から平成27年6月30日まで5期15年間、同委員として人権思想の普及高揚に尽力。伝達式では、長谷川正彦釧路地方法務局帯広支局長から前田さんへ感謝状が手渡されました。前田さんは「ベテランの委員さんに支えられ、やっと卒業したなという思いです」とこれまでの活動の思い出や感謝の思いを語りました。



18ホールで白熱ゴルフ **7/5**

第18回本別町民ゴルフ大会（実行委員会主催）が7月5日、帯広白樺カントリークラブで実施されました。競技は18ホールストロークプレー、ダブルペリア方式で行われ、参加した80人は、鋭いショットを繰り出しながら白熱した試合を展開しました。この他会場では、本別町のスポーツ振興を目的としたチャリティーボックスが設けられ、集まった募金74,000円は本別町スポーツ振興基金へ寄付されました。成績は次の通り。

優勝＝中前行視さん
準優勝＝上原章司さん
3位＝伊藤英昭さん



地域一丸となった生涯学習の大切さを学ぶ **7/3**

十勝管内教育研究所所員研修会（十勝管内教育研究所連絡協議会主催）が7月3日、中央参加した十勝管内の教育研究所員ら約120人参加し、中央公民館を主会場に開催されました。研修会では、開会式の終了後、高橋正夫町長が「生涯を通じて学び、夢と未来を育むまちづくり」題した講演を行いました。高橋町長は、平成13年から取り組んできた生涯学習によるまちづくりの事例を紹介。「未来を担う子供たちを育てるためには、家庭や学校、地域が一体となる生涯学習の取り組みが必要です」と語りました。午後からは、3部会に分かれ研究発表などが行われました。



白糠町で本町特産品をPR **6/28**

町と町観光協会（野田仁会長）が6月28日、白糠町で開催された「港in白糠大漁まつり」で町の特産品をPRしました。これは、平成25年に両町の間で「包括交流連携協定」が結ばれたことによる交流事業のひとつとしてお互いのイベント時に行われているものです。販売したのは黒豆や小豆の生豆のほか、味噌や豆腐のキレイマメ商品など28品目。白糠町民をはじめ多くの来場者から注目をいただき、本別町のブースは大盛況を見せました。



交通安全を呼び掛ける

6 25 7 13・16・17

交通安全母の会（田西喜代会長）会員の5人が無事故の日に合わせて6月25日、老人クラブ連合会（小川健司次会長）の会員30人が7月13日、北8丁目ふれあい公園で交通安全啓発チラシやポケットティッシュ、函館市在住の森久子さんから届けられた交通安全の願いが込められたつまようじ入れなどを手渡し、道行くドライバーへ「安全運転をお願いします」と話しながら交通安全を呼び掛けました。また交通安全指導員会（宮崎統会長）の会員8人が仙美里小学校で7月16日、本別中央小学校で7月17日、夜光反射ストラップをプレゼントし、下校時の交通安全を呼び掛けました。



交通安全母の会



老人クラブ連合会



交通安全指導員（仙美里小学校）



交通安全指導員（本別中央小学校）

本別の交通安全を願って

7 10

函館市在住の森久子さん（96歳）から、交通安全を願って手作りしたつまようじ入れ400セットが7月10日、役場へ届けられました。これは森さんが、本別町生まれ、足寄町育ちという縁から寄贈していただいているもので、このつまようじ入れは、町内の団体が取り組む交通安全キャンペーンなどでドライバーへ手渡されています。



十勝相撲大会で団体優勝

7 11

7月11日に幕別神社常設土俵場で開かれた第30回全十勝小学生対抗相撲選手権大会において、本別柔道少年団（古山靖弘監督）の本別中央・足寄小学校合同チーム5人が小学生団体戦で優勝しました。大会には十勝管内の小学生約100人が出場。団体戦は4チーム総当たり戦の取組が行われ、同チームは全勝で見事優勝を勝ち取りました。出場した浜名勇汰くん（本別中央小2年）は、「優勝できてうれしかった」と喜びを語りました。



華やか衣装でダンス

7 11

本別高校（児玉佳範校長、145人）による第73回本高祭が7月11日・12日の2日間、同校などで実施されました。11日には、毎年恒例となっている仮装行列・パフォーマンスが役場前駐車場で行われ、生徒らは、各クラスで手作りした華やかな衣装を身にまとい、はつらつダンスを披露。演技が終わるたびに、会場に詰め掛けた保護者や友人などから大きな拍手が送られました。



国民年金 コトナ

その160

個人情報
聞き出さぬよう
不審な電話に注意！

日本年金機構が保有する個人情報の流出問題に便乗して、個人情報聞き出すと不審な電話がかかってきた事例が多数報告されています。不審な電話は、親切で巧妙な語り口により個人情報を聞き出そうとしますので、皆さんご注意ください。

●日本年金機構に報告された事例を紹介

事例1…日本年金機構と名乗り電話がかかってきて、「名前は？」「この金融機関を利用しているのか？」「家族構成は？」と聞かれた。

事例2…〇〇年金事務所と名乗り電話がかかってきて、「あなたの年金振込口座の情報が漏れており、今回、別人の年金が入金されてしまったので、すぐにATMに行ってお金を引き出す必要があります。急がないと横領の罪に問われますよ」と言われた。

★不審な電話は、次のような特徴があります

- ・始めは丁寧な話し方をする
- ・途中から「今すぐ手続きをしないと年金が止まる」などと、焦らせるような言い方をする
- ・特に60歳以上の人と年金受給者、高齢者の個人情報を聞き出そうとする
- ・金融機関やコンビニのATMに行くことを勧める

※個人情報流出問題に関して、日本年金機構や自治体の職員が「個人情報を知ること」「電話をすること」「お金を要求すること」「ATMの操作を願うこと」は一切ありません

ご自宅や職場などに不審な電話がかかってきたら、迷わずに専用電話窓口または住民課戸籍年金担当へご相談ください。

日本年金機構専用電話窓口

☎0120-818211
受付時間 午前8時30分～午後9時
※通話料はかかりません



詳しくは
住民課戸籍年金担当へ
☎22-8128

みんなの健康

372

少し前になりますが、俳優の方が大腸がんで亡くなるというニュースがありました。かなり進行した状態で発見されたため、抗がん剤による治療を受けられなかったと聞いていたと…。



がんは「治せる病気」と言われていますが、今でも「治せる」ためには早期発見が必須なのです。

大腸がん検診の話

ただ、便潜血検査による進行がんの発見率は9割と高いのですが、早期がんの発見率は5-6割ほどです。

便潜血が陰性でも、「大腸がんでは絶対ない」とは言い切れないところがあります。血縁に大腸がんの患者さんがおられる人など、大腸がんが気になる人はぜひ、大腸の検査を受けてみることをお勧めします。

本別町国民健康保険病院
医長 迫口太朗

未来に輝く子どもたち

本別町の未来を担うかわいい星たちです。
お父さん、お母さんのたくさんの愛に包まれてすくすく元気に育つてね！

負殿 盛 颯 太 (理想ママ)



※写真は本人に了解を得た上で掲載しています

お茶会やゲームで交流 7/12

高齢者の介護予防や地域の集いの場として、地区ごとで活動している自立支援の会の「介護予防事業合同交流会」が7月12日、勇足地区公民館で開かれました。交流会では、参加者全員で体操をした後、席ごとの11組に分かれ、チーム戦でカードゲームや玉入れなどのゲームで交流。3地区から参加した約80人の高齢者たちは、ゲームやお茶会で他の地区の仲間と会話をするなど、楽しい1日を過ごしました。



なつかしい歌で交流 7/14

向陽町自治会（山田鶴雄会長）と町老人ホームの交流会が7月14日、町養護老人ホーム悠翠荘で行われました。これは、同自治会の地域貢献活動として開かれているもので、交流会では、「日本の歌をうたおう」と題し、初めにおびしん音楽教室の講師ら3人とともに発声練習を行った後、入所者や施設職員、同自治会の会員計35人が「ふるさと」や「バラが咲いた」など全13曲を合唱。手拍子も交えながらなつかしい歌を口ずさんだり、会話を楽しむなど、なごやかなひとときを過ごしました。



情報を広報電算担当へお寄せください ☎22-8121

ご寄付ありがとうございます

平成27年6月16日から7月15日

次の通りご寄付をいただきました。
紙上をかりて厚くお礼申し上げます。(敬称略)

- ★本別町・本別町教育委員会指定
自著書籍「毎日お豆を食べましょ」20冊
……………活込林 敏子
- ★本別町スポーツ振興基金指定
金74,000円
…本別町民ゴルフ大会実行委員会 委員長 岡崎 勉

個性あるふるさとづくり寄付条例による寄付

金120,000円	……………	神奈川県	新津 徹
金10,000円	……………	神奈川県	菅野奈奈子
金10,000円	……………	札幌市	磯部 武
金10,000円	……………	千葉県	小林大輔
金10,000円	……………	長崎県	北浦佳子
金10,000円	……………	埼玉県	田中幹也
金10,000円	……………	群馬県	戸神重昭
計 金190,000円	……………		匿名 19人

銀河ホップアラウンド

足寄町

第36回 足寄ふるさと盆踊り 両国花火大会

盆踊りや花火大会などさまざまな催し物で皆さんをお迎えします。
ぜひ来場ください。

8月15日(土) 午後1時

町民センター前駐車場および周辺

陸別町

銀河の森天文台 夏のイベント情報

夏の星空を楽しむ観望会などで皆さんのご来館をお待ちしています。

- *天の川と夏の天体観望会 8月5日(水)～16日(日)
- *パールセウス座流星群観望会 8月12日(水)・13日(木)
- *プラネタリウム 8月は、毎週土曜日・日曜日他、8日から16日まで毎日上映

内容

- 午後1時～ ピアガーデン
- 午後3時30分～子ども縁日
- 午後5時30分～みんなで楽しむ足寄音頭 子ども盆踊り
- 午後6時～ もちまき
- 午後6時15分～仮装盆踊り・素踊り
- 午後7時15分～両国花火大会
- 午後8時15分～仮装盆踊り審査発表・表彰式

※時間は変更になる場合があります
お楽しみ抽選会

詳細 足寄町役場経済課林業商工観光室
☎2512141 内線252

入館料 大人(昼間) 300円
(夜間) 500円
小人(昼間) 200円
(夜間) 300円

※小学生未満 無料

開館時間 午後2時～午後10時30分
※8月5日～16日は、正午から特別開館

休館日 毎週月曜日・火曜日
※8月10日・11日は、特別開館

詳細 銀河の森天文台
☎2718100

本のある暮らし 173

たくさん大豆料理を食べましょう

戸籍のまど

お誕生

6月後半から7月前半の届出分

- 大和田瑛心えいとくん 幸治さちさん 6/11 清流町
- 佐々木真吾しんごくん 信幸のぶさん 6/21 拓農
- 羽賀夕夏ゆうかちゃん 健一けんいちさん 6/21 柏木町
- 西部晴人はるとくん 健太けんたさん 6/23 南1丁目

ご結婚

- (山本広大ひろひろさん 山手町)
- (海藤あかねあかねさん 音更町)

おくやみ

- 齋藤ふち子ふちこさん 93歳 6/16 美蘭別
- 佐々木ヨシよしさん 101歳 6/20 上本別
- 鈴木ゆかりゆかりさん 54歳 6/23 北1丁目
- 八重原百合ゆかりさん 103歳 6/24 向陽町
- 松山清吉きよきちさん 78歳 6/26 錦町
- 長田くるみくるみさん 51歳 6/26 柏木町
- 中山喜美子きみこさん 94歳 6/27 仙美里町
- 布施秀二ひでじさん 81歳 6/30 栄町
- 部田壽治すけぢさん 99歳 6/30 柏木町
- 山口ぬみ子ぬみこさん 97歳 7/1 弥生町
- 渋佐辰雄たけしさん 85歳 7/1 向陽町
- 田西たけたけさん 97歳 7/9 向陽町
- 松井一廣かずひろさん 79歳 7/11 北3丁目
- 高砂雅信みやのぶさん 63歳 7/13 新町
- 我妻良子らよこさん 86歳 7/15 勇足元町

わたしたちのまち

前月比
 人口 **7,616人(-4)**
 男 **3,749人(±0)**
 女 **3,867人(-4)**
 世帯数 **3,748戸(+3)**
 〔6月末日住民基本台帳〕

「栄養価の高い豆料理を1人1日80g食べて健康であってほしい」との思いで、町内西美里別で本別生活学校を主宰する林敏子さんが「毎日お豆を食べましょう」を発刊しました。

紹介されている80種類の豆料理は、調理しやすく、食べやすいように考えられたレシピに、毎日豆を食べる工夫、豆の種類、保存の仕方などがわかりやすく掲載されているので、初めて豆料理を作る人には最適な1冊です。

林さんは、「本別町は、豆の町。おいしい豆を使って製品にしたり、家庭で自分流の豆料理を作ってもらえると、とても嬉しい」と話しています。

「毎日お豆を食べましょう」を参考にたくさんの豆料理を作ってみませんか？



林 敏子さんのプロフィール

- 1932年 本別町生まれ
- 1953年 盛岡生活学校入学で、豆とのかかわりを持つ
- 1956年 帯広友の会（婦人之友社読書グループ）入会
- 1956年～1961年 町生活改良普及員として農家の主婦の皆さんと大豆の食べ方を研究
- 1974年 「本別生活学校」を夫の育雄さんと共に創設し現在に至る

★「毎日お豆を食べましょう」は図書館で2冊所蔵していますが、貸出中の時は予約もできますのでたくさんの方のご利用をお待ちしています。

お問い合わせ先
本別町図書館
 (愛称:ぶつくる一丸)
 本別町北2丁目 ☎・FAX 22-5112